



【プラットフォーム・かんほきょうとは】

元気で活発な地域コミュニティを実現するために、「ヒト」と「情報」をコーディネートしながら、ニーズの把握とシーズを提供。「個と個・個と組織・組織と組織」を繋ぐほか、「コミュニケーションが可能な仕組み」を兼ね備えたプラットフォーム(ネットワークの基盤)のこと。

過去開催した専門研修の様子
「災コース」(中)、「防災・減災」
のロゴマークを取り組み例
(下)



第65回地区衛生組織活動資金募集(環境・健康募金)事業スタート

地域の「環境づくり」「健康づくり」の財源に

ご理解・ご協力をお願いします

今年度で65回目を迎える地区衛生組織活動資金募集(通称:環境・健康募金)は、「私たちの地域は私たちの手で」という思想のもと、地域ぐるみの公衛協活動を行うための活動資金を集めるものです。

昭和35(1960)年2月の広島県公衆衛生大会で、世界保健デー(4月7日)を「健康感謝の日」と定め、毎年募金活動を実施しています。

市町の公衛協が集めた募金は、地区衛生組織活動資金募集委員会で集計し、市町公衛協、環保協、事務費に配分され、公衆衛生活動に役立てられます。

市町公衛協に配分された募金は、「ごみ減量・リサイクル事業」「地域清掃・美化活動」「脱温暖化事業」などの環境づくり事業、「フレイル予防事業」「ウォーキング」「食育」などの健康づくり事業



に活用されています。公衛協の活動内容は市町によって異なりますので、詳細は各市町公衛協事務局にお問い合わせください。

環保協配分金は、全県共通事業重点メニューの活動支援グッズの作成、公衛協のリーダーを養成する各種研修の開催、公衆衛生推進手帖の作成、学習教材の貸し出しなどに活用しています。

事務費配分金は、募金事業をスムーズに進めるためのPR用ポスター、チラシ、募金回収袋の作成、振り込み手数料などに充てられます。

みなさまからお預かりした募金は、市町の公衆衛生活動のために使われ、地域の「環境づくり」と「健康づくり」に役立てられます。

公衛協が継続して活動するため、募金の主旨をご理解いただき、ご協力をお願いします。

(地域活動支援センター)

夕・脱温暖化センターやひろしまは、環保協の公益事業部門として、公衆衛生推進協議会(以下、公衛協)を中心としたミヨーティにおける健康づくり、環境づくりの支援を行っています。昨年度から

三月が県内の各所にスタートした第2次経営ビジョンの2年目となる令和6年度は、元気で活発な地域コミュニティが時代に沿うた、「コミュニティの環境活動を支援すること

ができるよう、時代に沿うた、「コミュニティの環境活動を支援すること」を目的として取り組みを進めています。この実現に向けて、今年度は主に以下の点について重

点的に取り組みます。

① プラットフォーム・かんほきょうの展開

当協会がこれまで専門研修を、より公衛協の活動に役立てることができる内容についての見直しを行ったための見直しを行った今年度は、「水辺教室の開き方」「効果的な広報の仕方」「防災・減災」「我がまちの魅力発見」の4つのテーマで実施します(開催日時会場については6面参考)。

「第62回環境保健夏季大会」は、昨年度実施したアンケート結果などを参考に、今年度は日帰り2日間の研修を広島市内で7月18日(木)~19日(金)に開催する予定です。また、「第65回広島県公衆衛生大会」は、11月22日(金)に竹原市の竹原市民館での開催に向けて

準備を進めています。そのほか、全県共通事業重点メニューとして「STOP!フレイル事業」や「食品ロス削減事業」など多彩な事業を展開し、元気で活発な地域コミュニティが県内の各所にできるよう取り組みを進めています。

(地域活動支援センター)

を事業方針に掲げています。そして、「プラットフォーム・かんほきょう」の効果的な活用により、さまざまな人や組織を融合させることで幅広い事業を展開し、地域コミュニティ活動の活性化を図ることを目指して取り組みを進めています。

当協会がこれまでに実施に向けた取り組みを展開します。そこで、行政企業各種団体・学校などを繋いだ新たな事業実施に向けた取り組みを展開します。

脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動の愛称「デコ活」につながる取り組みに応じた新たな脱炭素メニューを開発し、運用に向けた取り組みを進めています。

培ってきた「情報ネットワーク」「協力団体」などの情報を、公衛協の活動に有効活用できるような仕組みを考え、運用に向けた準備を進めます。そこで、行政企業各種団体・学校などを繋いだ新たな事業実施に向けた取り組みを展開します。

照。

② 専門研修のリユース

「第62回環境保健夏季大会」は、昨年度実施したアンケート結果などを参考に、今年度は日帰り2日間の研修を広島市内で7月18日(木)~19日(金)に開催する予定です。また、「第65回広島県公衆衛生大会」は、11月22日(金)に竹原市の竹原市民館での開催に向けて

準備を進めています。そのほか、全県共通事業重点メニューとして「STOP!フレイル事業」や「食品ロス削減事業」など多彩な事業を展開し、元気で活発な地域コミュニティが県内の各所にできるよう取り組みを進めています。

当協会がこれまでに実施に向けた取り組みを展開します。そこで、行政企業各種団体・学校などを繋いだ新たな事業実施に向けた取り組みを展開します。

当協会は本グランプリの協力機関として、牡蠣の安全性検査、生産者や当日の調理に携わるなど関係者を対象に、衛生教育を実施しました。

本グランプリは予選会そして本選を経て、おいしい牡蠣が選ばれます。審査員には、服部学園理事長の服部幸應先生や ANA クラウンプラザホテル広島総料理長の澤村収二シェフなど、多くの食の専門家をお招きし、審査されました。

今年グランプリに選ばれたのは「生食部門」では兵庫県産の牡蠣、

出品された牡蠣を見る参加者

地域コミュニティ活動の活性化へ

環保協

専門研修の大幅リユースなど



当協会が衛生教育を実施

「加熱部門」では岡山県産の牡蠣でした。広島県産の牡蠣も加熱部門では準グランプリに選ばれるなど、健闘されていました。

大会の最後に、主催者代表の門林水産(広島県江田島市)の門林氏より、「来年も開催できるように取り組んでいきます。」との力強い声とともに今年のグランプリが幕を閉じました。

本大会は牡蠣のおいしさを競うだけではなく、全国の生産者の横の繋がりを広げていく会であったと感じた二日間でした。

大会後、関係者から食中毒などの健康被害はなかったとの連絡をいただきました。来年も事故のないグランプリ開催を目指して、当協会も協力していきたいと思います。

(食品衛生課 和田 貴臣)